

ネットワーキング委員会活動報告

ネットワーキング委員会（平井・新見・高木・藪田・岩淵）

1. 「研究・実践・キャリアお悩み相談ゼミ」

<開催日時>

2024年2月17日（土）13:00-15:10

<開催趣旨>

「相談ゼミ」は、研究者・実践者同士で、自身の研究や実践・キャリアの計画・現状についての情報交換や、悩みを相談できるオンラインの場です。悩みや迷いも含めて気軽に今自分が行っている研究や実践・キャリアについて話し、参加者からのコメントや質問をもらうことができます。また参加者は、そうした発表から刺激や気づきを得たり、他の参加者の質問やコメントから新しい視点を得ることができます。

「相談ゼミ」は、どなたでもご参加いただけます（学部生や院生の発表・参加も歓迎します！）。研究や実践を共に耕していく、ゆるやかな「ゼミ」に奮ってご参加いただければ幸いです。

<実施形態>

オンライン（Zoom）

<プログラム>

13:00-13:10 趣旨説明、全体でウォームアップ（10分）

13:10-14:00 相談ゼミ①（50分）【ブレイクアウト①】

14:00-14:10 休憩（10分）

14:10-15:00 相談ゼミ②（50分）【ブレイクアウト②】

15:00-15:10 まとめ（ふりかえり、感想、今後希望する活動アンケートなど）

実施に当たっては、各グループにネットワーク委員1～2名と、2～3名の参加者を配置。

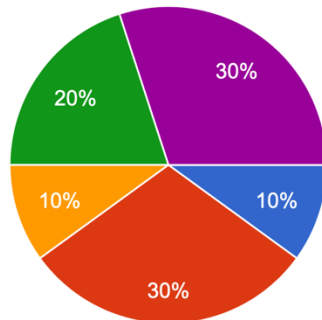
<参加状況>

参加者14名、ネットワーキング委員5名

<参加者プロフィール>

プロフィール

10件の回答

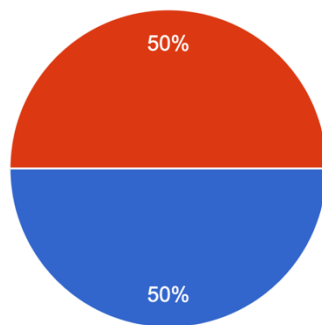


- 学部生
- 大学院生
- ポスドク
- 教職員 (5年未満)
- 教職員 (5年以上)

<会員・非会員>

会員または非会員

10件の回答

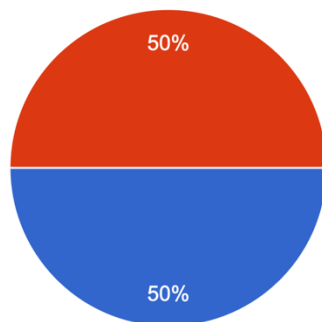


- 会員
- 非会員

<参加形態>

今回のイベントへの参加形態について教えてください。

10件の回答



- 発表者として参加した
- 参加者として参加した

<アンケート結果報告> (事後アンケート回答者 10名)

ワークショップへの満足度 平均値 8.9 (10 点満点中)

<ワークショップを通しての学びや感想>

<p>本日は、貴重な機会を設けていただきありがとうございました。 自分自身の調査フィールドに入っていく際の悩みを共有をメインに発表させていただきましたが同じブレイクアウトルームに入ってくださったメンバーの方々にたくさん温かいコメントやフィードバックをいただくことができました。おかげさまで、研究をする上での元気が回復したような気がしました。参加者として参加したブレイクアウトルームセッションでの議論では、大変刺激をいただきました。このような研究についての意見であったり、どのようにしてその問題意識が芽生えたのかという研究者としてのルートは、学会などのフォーマルの場では聞きづらいこともあり、気軽に聞くことのできるこのような場は大変貴重であると感じました。また、一見テーマや分野が違うように見えても、実は根っこの部分で同じような問題意識を持っているというのもわかって、自分は一人じゃないのだなということも痛感いたしました。本当にありがとうございました。</p>
<p>研究会、学会、職場ではあまり話すことのできないことを話す機会を設けていただき、たいへんありがたいです。アイス・ブレイカーのじゃんけんが楽しかったです。</p>
<p>初めて参加しました。発表者の方々に刺激をいただきました。ありがとうございました。自分の今後の方向性を考える上でとても参考になりました。</p>
<p>研究だけでなく、キャリアなどについても話できて、楽しかったです。</p>
<p>多くの異なる分野の方々からの貴重なお話を聞くことを通じて、自分の研究の方向性や課題が明確になるように感じました。今後もこのような機会を大切に、いろんな視座から異文化・多文化研究に携わる方々との交流を通じてより広い視野を持ち、より豊かな研究活動を行っていきたいと思います。</p>
<p>大学院進学準備に取り組み始めたばかりの大学生として、研究者の方々の思い、研究中の問題点についての考察を体験させていただきました。研究テーマは様々であったが、どれも生活に密着したものであり、それぞれの発表者の研究テーマに対する熱意とこだわりを感じることができました。</p>
<p>期待値以上のネットワーキングができました。バックグラウンドや研究分野が異なる方でも、自分と多くの共通項があること、根底の問題に類似点があることなど新たな発見がありました。機会があれば、また参加させて頂きたいと思います。今日の参加者各位に、私の連絡先(メールアドレス)を運営委員会からお送りいただくことは可能でしょうか?ご自由にご連絡いただいても結構です。いろいろと興味深いお話をされている方が多かったので、より深く情報交換・共有させて頂ければと思っております。</p>
<p>とても有意義でした。今、自分のキャリをどう進めていこうかと考えていますので、立場が様々な方と交流できる良い機会を頂きました。「放送大学」出身の方もいらっやって身近に感じました。お話にもありましたが「異文化」関係の会は参加しやすいです。</p>
<p>話し合いの場があると充実してとても自分の力につながりました。 また開催いただけたら嬉しいです。</p>

<全体の運営に関しての意見・感想>

<p>可能であれば、自分が参加した以外の発表資料をご共有いただきたいです。</p>
<p>全員が zoom の名前に所属マークするようにすれば、コミュニケーションがもっと取りやすくなると思います。</p>
<p>全体を通じて、非常にスムーズな運営だったと思います。提案ですが、呼び方を予め決めておいた方が、より発言しやすいかと思います。例えば、「～先生」はやめて、全員「～さん」に統一するとか。</p>

<今後取り上げてほしいテーマ>

<p>異文化・多文化研究を行っている方々が研究の中で抱えるモヤモヤ感について話し合えたらと思います。</p>

4. 振り返り

今回のイベントでは、希望する参加者に研究、教育実践、キャリアに関して相談してもらいたいことを1枚程度に簡単にまとめた上で、zoomを使った小グループで発表してもらい、他のメンバーはそのテーマや発表者に対してサポートや体験の共有、アドバイスや情報提供などを行なった。

アンケートを見ると、発表者については研究や教育実践、キャリアに関する大きなヒントをもらえたという感想のみならず、メンバーの研究や教育に対する熱意からモチベーションをもらった、自分一人ではなく同じ問題意識を持った人たちがいることを実感できたなど、情緒面や動機づけの面からも大きな意味があったことが窺える。この点に関連して、今回は昨年に加えて研究・実践のみならず、「キャリア・進路」というテーマを加えたが、キャリアのテーマを加えたことで、発表者およびメンバーの仕事へのやりがいや、1人1人の働き方や生き方までグループ内で共有でき、会員同士の関係性の構築にも一役買ったと思われる。また、今回の参加者の半分は非会員であったが、会員・非会員の隔てなくお互いをサポートできる時間を設けることができ、イベント後に入会を申し込んだ参加者がいたことも評価できる点である。

今後の課題やアイデアとしては、イベントに参加した参加者がその後も情報交換ができ、かつネットワーク委員会との異なるイベントに参加した参加者同士が知り合えるプラットフォームを構築してはどうかというアイデアが委員から出ている。具体的には、Facebook や LINE など、過去の参加者のグループを作って必要に応じて情報を流したり、実際に対面で会うことができる交流会や懇親会を企画したりなど、イベントの外での交流も無理のない範囲で促進できればと考えている。